

京都第二外環状道路(京滋バイパス・一般国道478号)建設事業

受賞機関

国土交通省近畿地方整備局京都国道事務所
日本道路公団関西支社京滋工事事務所

はじめに

京都第二外環状道路は、南北に長い京都府の北部と南部の連携を強化し、地域の活性化に資する京都縦貫自動車道の一部を構成する延長約15.7kmの自動車専用道路である。

このうち、一般有料道路京滋バイパスの巨椋ICから名神高速道路の大山崎JCT間(延長約8km)の自動車専用道路とそれに併設する一般国道478号(延長約5.7km)を国土交通省と日本道路公団による同時施行として事業を行った。



大山崎JCT上空より久御山JCT方面を撮影



宇治川上空より久御山JCT方面を撮影

を採用するなどコスト縮減に取り組むとともに併設する一般国道478号は同時に施工、重交通路線の名神高速道路や国道171号並びに東海道新幹線が近接又は交差する個所の施工にあたっては夜間工事を主体に実施することにより他交通への影響を避けるなど、施工の効率化・円滑化にも努めた。

道路構造は、全区間橋梁高架構造である4車線の自動車専用道路と環境施設帯(植樹帯、歩道、自転車等)と一体となった2車線の一般道路が併設する形になっており、沿道環境との調和や生活環境の保全を図り、地域の人々がくつろげる憩いの道路空間作りに努めた構造である。また、過去に水陸要衝の地として栄えた三川合流部(桂川、宇治川、木津川)に架かる橋梁についても、橋梁の形式・塗装色等のデザインに検討・工夫を加え河川環境の保全にも努めている。

本道路の整備により、現名神高速道路との2ルート化が完成し、名神高速道路の渋滞緩和に寄与するとともに、事故災害時等の補完機能による交通の定時性・確実性が向上された。また、名神高速道路及び第二京阪道路と連携することによる新たな高速ネットワークの形成により、京都府南部地域の活性化等に大きく寄与するものと期待されている。

また、併設される一般国道478号は、京都市内に接続する幹線道路相互を東西に連絡することで、京都市圏の環状道路を形成し、京都市内への流入交通の分散化や通過交通の迂回が可能になり円滑な道路交通を実現した。

事業の概要

道路規格：自動車専用部(京滋バイパス)

構造規格：第1種第3級

設計速度：80km/時

車線数：4車線

一般部(一般国道478号)

構造規格：第3種第2級

設計速度：60km/時

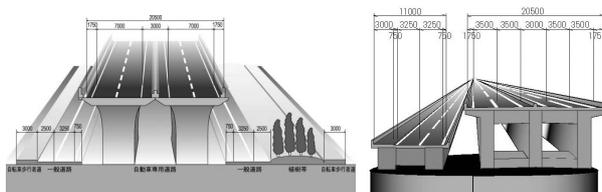
車線数：2車線(歩道有)

事業実施期間：昭和59年11月～平成15年12月

総事業費：約2,300億円

事業の効果及び成果

工事実施にあたっては、橋梁高架橋の鋼桁の合理化設計による製作部材節減、少本数桁化及び全工場塗装の採用、コンクリート橋のPRC構造及び高強度のPC鋼線の採用、支承の省力化を図った剛構造等



陸上部

【標準断面図】

河川部

賛助会員 川田工業(株)、佐藤鉄工(株)、清水建設(株)、東亜道路工業(株)、トピー工業(株)、日本鉄塔工業(株)、三菱重工業(株)、(株)横河ブリッジ